

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 愛媛県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|----------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 松山市立旭中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 0 | 6 | 14 |
| 生徒数 | 51 | 66 | 58 | 0 | 175 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|-------------------------------|
| 確かな学力の向上を目指し、自ら学ぶ生徒を育成する教育の推進 |
|-------------------------------|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1, 2, 3年生・国語
学校として、当該教科に関する研究実績があるから。
- ・ 1, 2, 3年生・英語
少人数学級編成での授業を実施しているから。
上記の教科を中心に各教科で取り組み、全校的に実施している。

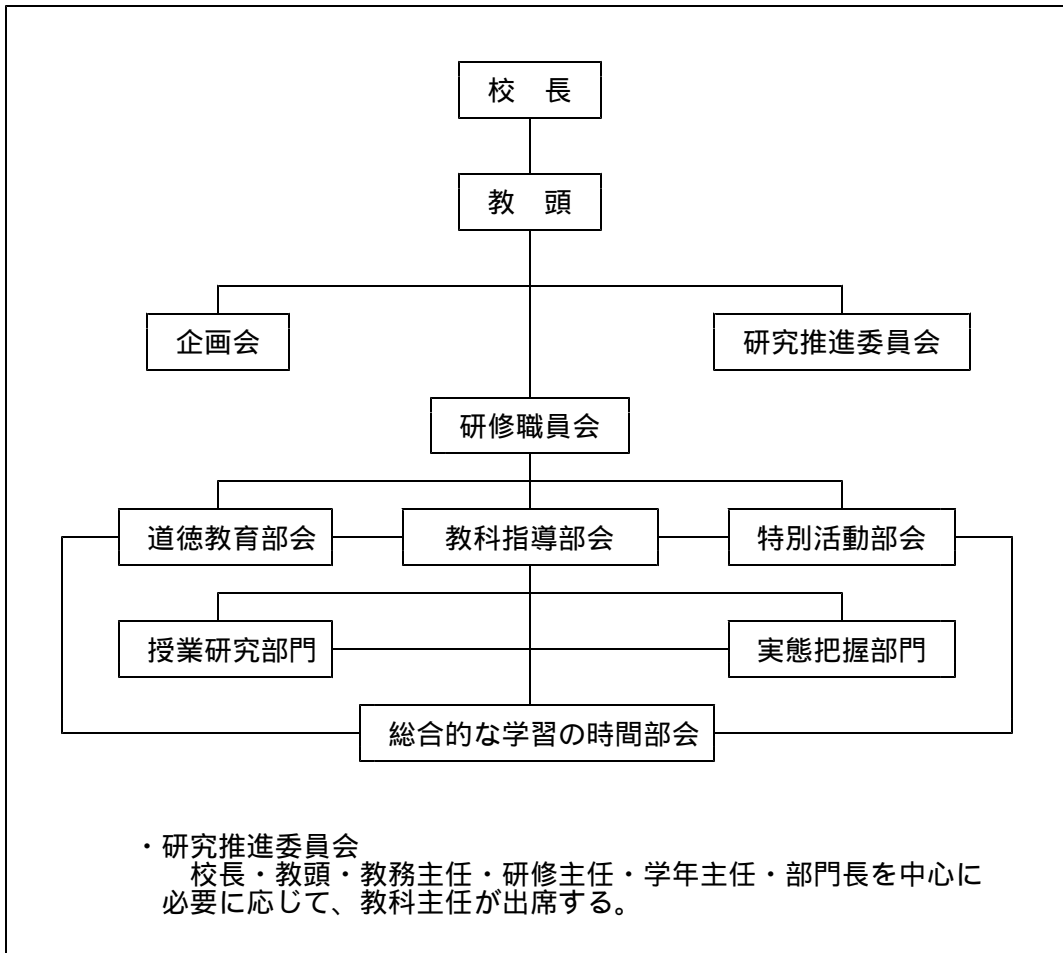
(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|---|
| 平成14年度 | <p>テーマ 確かな学力の向上を目指し、自ら学ぶ生徒を育成する教育の推進 研究の見通し（仮説） 基礎・基本の定着を目指し、全員が各場面で取り組めば、確かな学力の向上につながるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 実態把握を基に、授業改善及び指導の取組の工夫を中心に全教員が取り組む。</p> |
|--------|---|

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ 確かな学力の向上を目指し、自ら学ぶ生徒を育成する教育の推進 研究の見通し 基礎・基本の定着を図るため、各人が各場面できめ細かな指導を工夫に取り組めば、確かな学力の向上につながるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 1年次の課題を基に改善を加えて取り組み、研究実践の公開を実施する。</p> |
|--------|---|

| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ 確かな学力の向上を目指し、自ら学ぶ生徒を育成する教育の推進 研究の見通し 主体的な課題解決を図るために、きめ細かな指導に取り組めば、確かな学力の向上につながるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 過去2年間の取組を基に実態把握をし、改善を加えながら、継続的な研究実践をする。</p> |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題
1. 研究成果

- ア 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
- (ア) 国語科で新聞記事のスクラップノートづくりを行うことにより、言語について主体的に調べ、文章の内容を理解していこうとする態度が育ってきている。また、基礎基本の定着を目指した学習に取り組ませることで、表現力が向上した生徒が増えてきている。
- (イ) 選択社会科で環境問題について調べ学習を行う上で、小集団による課題追求学習を取り入れることや発表会を持つことで、意欲が長続きしている。
- (ウ) 選択音楽科では、使用する楽器の種類を多くすることによって、幅広い音楽性が育成されつつある。
- (エ) 選択技術科では、生徒の興味・関心に応じて発展的な製作に取り組ませることで、授業に主体的・意欲的に臨む姿が多く見られるようになった。
- イ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
- (ア) 全校一斉に朝読書を実施して、読書に対する意欲が高まり、読解力が全体的に向上してきている。
- (イ) 国語科・数学科では、T・Tの導入により個別指導の充実を図ることができた。また、小集団による学び合い学習や配慮を要する生徒への声かけの機会が増えた。
- (ウ) 理科では、個に応じた学習形態や指導過程を工夫することで、学習内容の定着がより促進され、「学ぶ力」が高まりつつある。
- (エ) 美術科では選択や第3学年後期の授業に、題材や材料などを統一せず多様なコースを開設したことで、生徒の主体的で意欲的な取組が持続している。

- (オ) 保健体育科では、学習形態や指導過程を工夫して継続的な指導を続けることで、技能向上を目指した意欲的な取組が見られるようになった。
- (カ) 英語科では、少人数学習による課題別授業を实践して、きめ細かな指導を行うことができた。そして、ALTとのT・Tの授業では、生徒は体験活動を通して学ぶ楽しさを体感できている。
- ウ 生徒の学力の評価を生かした指導の改善
 - (ア) 総合的な学習の時間では、創作活動において自己評価・相互評価を取り入れることによって、意欲が持続している傾向が見られた。
- エ その他
 - (ア) 学習に関する実態調査を1年次と同様に全校生徒に実施し、学習への取組の状況を把握し、指導改善のための資料とした。その中には、全校一斉に朝読書を実施したことの効果がはっきりと表れている。
 - (イ) 各教科が生徒へのアンケートを実施し、研究推進のための資料とした。

2. 今後の課題

- ア 国語科での自己評価・相互評価を生かした読みや復習の指導では、自己評価・相互評価に時間を費やしすぎたので工夫改善が必要であると考えます。
- イ 選択社会科では、計画や評価の項目、観点別評価規準などを随時見直す必要があると考えます。
- ウ 数学科では、個に応じた評価の仕方を工夫する必要があると考えます。
- エ 理科では、既習事項を活用したり、次の段階の方法を考えたりする生徒をどう育成するかが課題である。
- オ 選択音楽科では、自己評価だけでなく相互評価も毎時間実施するかどうか検討している。
- カ 保健体育科では、男女別修から男女共修に変わった学年の、意欲の低下傾向が課題である。
- キ 選択技術科では、製作が進んで難易度が増したときに、いかにモチベーションを保っていくかが課題である。
- ク 英語科では、少人数学習のグループ編成の方法が課題である。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 各学年毎学期初めに学力診断テスト（国・社・数・理・英の5教科）を実施
- ・ 学習に関するアンケート（授業前の準備状況、学習に対する意欲の状況、読書の状況、家庭学習の状況などを問うもの）を毎学期実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究会開催実績
- ・ 会の名称 平成15年度第2回学力向上フロンティア事業研究指定校授業公開
 - ・ 日時 平成15年11月20日（木）
 - ・ 場所 松山市立旭中学校
 - ・ テーマ 確かな学力の向上を目指し、自ら学ぶ生徒を育成する教育の推進
 - ・ 対象 松山管内地区協議会委員、松山管内小中学校教職員、保護者
- H P作成等について
- ・ 学校のH P上で、研究成果を公開することについては検討中である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無